

:update

#035



R || RIEDEL
Wuppertal Montreal Melbourne

NAB PRODUCT :update

BUILDING THE IP PRODUCTION FABRIC

■ NAB 2026 では IP ベースのプロダクションへの移行が引き続き進み、放送やライブ環境の設計・運用方法を大きく形作っている様子が分かります。映像、音声、コミュニケーションは、もはや別々のシステムとして扱われるのではなく、共有インフラの中で相互に連携する要素として位置づけられています。RIEDEL にとってこの進化は新しいカテゴリーを導入することではありません。私たちはすでに実績のある技術を IP ベースのワークフローに拡張していくことに重点を置いています。焦点は「統合」「一貫性」「運用上の信頼性」にあり、ネットワーク環境においても、これまで慣れ親しんだアプローチを複雑さを増すことなく取り入れることです。

今年の NAB 展示ポートフォリオはこの方向性を反映したものとなっています。モニタリング、コメントリー、オーディオ接続などを、より一体となった制作環境に結びつけ、主要なプロダクション・ワークフロー全体にわたる統一されたアプローチを強化しています。

IP ベースのプロダクションにおけるモニタリングの簡素化



MEDIORNET FUSION ST 2110-TO-MONITOR GATEWAY BUNDLES

RIEDEL は ST 2110 MultiViewer App と併せて、IP ベース環境におけるディスプレイ接続を大幅に簡素化する MediorNet Fusion ST 2110-to-Monitor Gateway Bundles を発表しました。

これらのゲートウェイはコンパクトでソフトウェア定義型の FusionN プラットフォームを基盤としており、ST 2110 の映像、音声、補助データを、追加の処理ハードウェアを必要とせずに直接 HDMI* および SDI モニターへ変換します。シングルおよびマルチチャンネル構成が用意されており、HD、3G、UHD フォーマットに対応。柔軟な SFP ベースの入出力と NMOS による相互運用性を備え、IP ワークフローにシームレスに統合できます。コンパクトな筐体サイズに加え、ファンレス動作といった選択肢により、スペースに制約のある場所や静音性が求められる環境にも柔軟に導入できます。



MEDIORNET HORIZON ST 2110 MULTIVIEWER APP

MediorNet Horizon ST 2110 MultiViewer App の導入によって、RIEDEL は IP ベースの環境においても、制作に欠かせない主要機能の一つである信号監視を拡張します。

マルチビューイングは放送制作において依然として基本的な機能ですが、ST 2110 環境では、相互運用性、確実性のあるパフォーマンス、システム統合という新たな要件を満たす必要があります。HorizoN MultiViewer は、HorizoN プラットフォーム上でソフトウェア定義のアプリケーションとして動作することで、これらの要件に対応します。これにより、専用の外部マルチビューア・ハードウェアが不要になります。

このアプローチにより、システム設計が大幅に簡素化され、監視機能を処理リソースに合わせてスケーリングできるようになります。また、RIEDEL がこれまで培ってきたマルチビューアのコンセプトとの連続性も保たれています。エンジニアはベースバンドやハイブリッドの環境から IP ワークフローへ移行する際も、運用のロジックを変えることなく円滑に移行できます。同時に、このソリューションはライブ・プロダクション環境で求められる高いパフォーマンスを提供します。SMPTE ST 2110 の映像、音声、補助 (ANC) の各データに対応し、NMOS による制御をサポートしています。また、1RU のコンパクトな筐体で最大 128 スケーラーと 16 のマルチビューア出力を処理する高密度処理を実現しています。

このソリューションはマルチビューイングを根本から再発明するものではなく、IP ベースのプロダクション・システムへの自然な進化形と言えます。

コメントリーとコミュニケーション・レイヤーとの出会い



COMMENTARY CONTROL APP

ビデオ・ワークフローが IP 化へと進む中、コメントリーの制作はしばしば断片されたまま取り残されてきました。1200 シリーズ・デスクトップ SmartPanel 向けの Commentary Control App により、RIEDEL はコメントリーを直接コミュニケーション・エコシステムに組み込みます。Artist インターカム・システムにネイティブ接続することで、このアプリはコメントリー・ワークフローをプロダクションのコミュニケーションと同じロジックとインフラに統合し、並行したセットアップを排除してワークフローの複雑さを大幅に低減します。

円滑な音声接続



STAGELINK NSA-008A

完成図を彩るのは StageLink NSA-008A Network Streaming Adapter です。これは音声信号をクリーンに IP ベースの環境へ取り込むために設計されたコンパクトなインターフェイスです。プロダクション・システムにおいて、音声接続は複雑さが積み重なりやすいポイントです。NSA-008A は従来の音声ソースと ST 2110 インフラとの間にシンプルな橋渡しを提供することでこの課題を解決します。

SMPTE ST 2110-30 と NMOS に対応していますので、このデバイスは標準化された IP ワークフローにシームレスに統合されます。同時に、1 台のユニットで柔軟かつ放送品質を持つ入出力を実現します。

/// 結局のところ、目標は単に IP プロダクションを可能にすることではなく、それをシンプルにすることなのです //

ジェイク・ダドソン
Executive Director
Product Management
Riedel Communications

新たなプロダクション基準としての統合

これらの発展を総合すると明確な方向性が浮かび上がります——プロダクション・インフラの未来は、個々の機器によって定義されるのではなく、システム同士がどれだけうまく連携できるかによって決まるのです。

モニタリング、コメントリー、オーディオ接続がすべて IP ベースの環境で統合されることで、RIEDEL の NAB 2026 ポートフォリオは、より接続性が高く一貫した制作アプローチへと移行します。従来のワークフローは維持されつつ、IP ネイティブなアーキテクチャへと拡張されます。

同時に、このソリューションはエンジニアとオンエア・タレントの両方を考慮して設計されています。エンジニアはリモートでの設定、監視、サポート機能の恩恵を受け、一方、コメントリーはライブ・プロダクション中に邪魔にならないよう、自身のニーズに合わせて調整可能な適応型ユーザー・インターフェイスを用いて対話できます。SmartPanel プラットフォーム上で動作する Commentary Control App は多機能インフラへの移行を体現するものです。SmartPanel の 5 番目のアプリとして、インターカムを超えてコメントリーまで拡張し、同じデバイスをプロダクションに応じてインターカム・パネル、オーディオ・モニタリング・インターフェイス、またはコントロール・パネルとして運用可能にします。

IP による Artist-1024 への統合、スケーラブルなユーザー・インターフェイス設計、低遅延の効率的なデュアル・コメントリー・ワークフロー対応により、このソリューションはコメントリーを現代のネットワーク・ベースのプロダクション環境に適合させます。

マイクフォン、ライン・レベル信号、AES3 ソースを接続し、追加の変換レイヤーを必要とせずにネットワーク上で転送することが可能です。

また、NSA-008A はサードパーティ製インターカム・ワークフローにも対応しており、RIEDEL の Artist や Bolero などの環境で用いる場合には、より深くシステム統合された制御を可能にします。これにより、音声とコミュニケーションとネットワークとが統一されたプロダクション・インフラの中で融合しながらも、シンプルで信頼性の高い導入モデルを維持しています。

LEARN, PRODUCE, BROADCAST



ビンガムトン大学の学生、SimplyLive
でプロダクションを運営

■ビンガムトン大学のアスレティックス会場で試合の熱気が高まる時、それは伝統的な大学スポーツ以上のものです。80周年記念とDivision Iレベルでの25年目を迎える節目の年に、ニューヨーク州立ビンガムトン大学は、RIEDELのSimplyLive RiMotion R12の助けを借りて、学生主導のプロダクションがどのようにプロフェッショナルな放送環境へと進化するかを示しています。





その進歩は一目瞭然です。わずか数試合のバスケットボール中継から始まったものが、今では年間 120 以上のライブ・イベントに成長し、ESPN や SNY、MSG などの地域ネットワークで放送されるようになりました。この成長の中心にあるのが、ほぼ完全に学生が運営するプロダクション・モデルです。直感的な SimplyLive のインターフェイスにより、60～70 人の学生チームがほぼすべての制作業務を自ら担うことができるのです。

特に注目すべきは、ほとんどの学生が放送経験ゼロからスタートすることです。短期間で彼らはプロフェッショナルなレベルで制作をこなせるようになります。この成功の鍵となっているのが SimplyLive そのものです。これが、技術的なソリューションとして、参入障壁を下げつつ、ますます複雑化するワークフローを支えています。RiMotion R12 を基盤とした 2 つ目のリプレイ・ポジションを追加したことによって、ビンガムトン大学はプロダクション能力を大幅に向上させ、学生たちの日常業務にさらに大きな柔軟性を与えました。

同時に、同学は技術力だけでなく、スポーツのポートフォリオも拡大させました。バスケットボールに加え、サッカー、バレーボール、レスリング、野球、ソフトボール、ラクロスも制作の対象となりました。ここで SimplyLive システムの強みが発揮されます。その直感的な操作性により——タッチスクリーンでも従来のコントロール類でも、あるいはその組み合わせでも——、学生たちは複雑なワークフローにも素早く適応し、自分たちのニーズに合わせて調整できます。

もう一つの大きな利点はハイライト制作の速さです。オペレーターはクリップを制作しながらエクスポートでき、ほぼリアルタイムで処理＆加工してソーシャルメディアに共有できます。その結果、フィールド上で起きた重要な瞬間が、わずか数分後にはファンに届けられています。

舞台裏では、SimplyLive がダイナミックな制作環境に必要な柔軟性も提供しています。システムはほぼ毎試合前に再構成されます——マルチカメラのバスケットボール向けセットアップから、よりシンプルなプロダクションまで。ブラウザ・ベースのインターフェイスのおかげで、忙しい週にスケジュールが重なっていても、これらの調整を迅速かつ効率的に行うこと

ができます。最大 10 のカメラ入力と 4 つのプレイバック・チャンネルをサポートする R12 は、さまざまなプロダクション・シナリオに対応する十分な容量を備えながら、アクセスしやすく管理しやすいものになっています。これは、チームが常に変わる環境では不可欠な要素です。

ビンガムトン大学と Riedel Communications の提携は単なる技術的アップグレード以上の意味を持ちます。それは、学生たちが在学中に最高レベルの実践経験を得られるプログラムの継続的な発展の基盤であり、同時に現代のスポーツ・プロダクションにおけるワークフローを再定義するものです。

SimplyLive のようなツールがあるから可能なのです。なぜなら、初心者にも十分に柔軟でありながら、放送が ESPN、SNY、MSG へと拡大していく中で私たちが必要とする機能も備えているからです “

ジェレミー・ドノヴァン
Video Production & Multimedia Coordinator,
Binghamton University Athletics



UNIFIED CONTROL AND DISTRIBUTED INFRASTRUCTURE

CS live、RIEDEL を新中継車の統一制御と分散型インフラに採用

■ **ライブ・プロダクションがますます複雑化し、完了するまでの時間が短縮される中、制作会社は技術スタッフだけでなく、オペレーターがそれらとどのように関わるかも再考しています。** チェコを拠点とする CS live にとって、その答えはより統一されたソフトウェア主導のアプローチにありました。同社の最新の中継車では、MediorNet メディアネット・ワーク、Artist インターカム (Bolero ワイヤレスを含む)、および hi ヒューマン・インターフェイス制御システムを統合した Riedel Communications のエコシステムを完全導入し、単一のまとまったプロダクション環境を実現しています。

この新しい中継車は、主に国内サッカー・リーグやアイスホッケー・リーグ、国際大会、大規模 MMA (総合格闘技) イベントなど、注目度の高いスポーツ中継のために構築されました。柔軟性と信頼性が極めて重要な、要求の厳しい高速プロダクションに対応できる設計になっています。しかし、純粋な性能を超えて、このプロジェクトはより広範な戦略的シフトを反映しています。縦割り化されたシステムから脱却し、制御を簡素化しつつ、分散型インフラの柔軟性を維持する、より集約的な運用モデルへの移行です。

この変革の中心にあるのが RIEDEL の hi 制御システムです。これは、プロダクション環境全体にわたる統一制御レイヤーを導入します。CS live にとって、これはこれまでの中継車セットアップからの明確な脱却となります。従来はオペレーターが個々のシステムを独立して管理していましたが、hi によって、ルーティング、オーディオ、スイッチング、ファシリティ制御など、複数の制作要素を、単一のインターフェイスを通じてアクセス & 管理できるようになりました。「中継車で中央制御システムを導入するのは初め

てです」と CS live の CEO、パヴェル・ブラウン氏は語ります。「これで複数のシステムをより効率的にまとめて管理でき、必要に応じてワークフローを柔軟に適應させることができます」

このシフトは単なる利便性の問題ではありません。プレッシャーのかかる状況下で、プロダクション・チームの運用方法を根本的に変えるものです。別々の制御画面やシステムを切り替える必要が減ることで、オペレーターは制作ニーズの変化に迅速に対応できるようになります。さらに、タブレット・ベースの制御を追加したことで、固定パネルの場所を超えて主要機能にアクセス可能になり、ダイナミックな中継環境でますます価値の高い機能となっています。

この制御レイヤーの基盤となっているのが MediorNet の分散型信号アーキテクチャです。これにより、信号の伝送、処理、監視をネットワーク内で直接行うことができます。中央集中型のルーティング・コアに頼るのではなく、複数のノードに機能を分散させることで、CS live は制作に応じてインフラをスケールし、適應させる能力を得ています。同時に、このアーキテクチャは同社の長期的な移行戦略も支えています。現在は主にベースバンド・ワークフローを維持していますが、システムは完全なオーバーホールなして IP ベースのプロダクションへの段階的な移行に対応できるように設計されています。

現在の要件と将来の準備性を両立させた点が、技術選択の大きな要因でした。CS live は、即時的な運用メリットを提供しつつ、プロダクション基準の進化に伴う投資を保護できるソリューションを必要としていました。その結果、今日のワークフローを支えつつ、将来の発展の扉を開いたままにするインフラが実現しました。

hi 制御レイヤーの下で複数のシステムを統合したことも、中継車全体の運用を効率化する重要な役割を果たしています。音声卓、プロダクション・スイッチャー、リプレイ・システム、モニタリング・ツールなど、異なるメーカーの機器を統一された制御環境にまとめ、運用の複雑性を低減し、より一貫したワークフローを可能にしています。システム・インテグレーターである Smart Informatics 社にとって、エンジニアリング・チームが外部サポートに頼ることなくシステムを独自に設定 & 適應できるようにすることは、中心的な目標でした。「チームが自分のワークフローをよりコントロールできるようにし、すべての変更で外部サポートに依存しないようにすることが目標でした」と Smart Informatics のマネージング・ディレクター、トマシュ・ヴェセリー氏は述べています。

ライブ・プロダクションのもう一つの重要な要素であるコミュニケーションは、RIEDEL の Artist インターカム・プラットフォームと Bolero ワイヤレスを組み合わせることで実現されています。この統合アプローチにより、中継車内外のすべての制作任務で信頼性が高く柔軟なコミュニケーションが確保されます。スタンドアロンのインターカム・ソリューションと比較して、広範なシステム・アーキテクチャとの緊密な統合により、効率的な調整と、制作需要の拡大に伴う拡張性の向上が図れます。

このプロジェクトは、チェコ共和国における RIEDEL の hi 制御システムの初導入としても注目されており、地域におけるリファレンス・インストールとなっています。このようなプロジェクトを成功させるためには、CS live、Smart Informatics、RIEDEL の緊密な協力が不可欠でした。特に初期展開段階ではその協力が重要でした。このパートナーシップは設置を超えて続き、新たなワークフロー・モデルへの円滑な移行を支える継続的なサポートが大きな役割を果たしました。

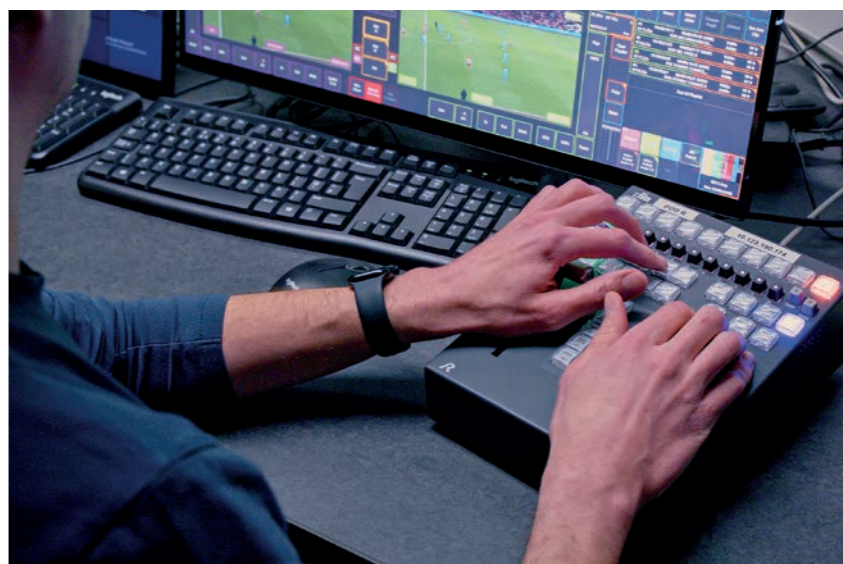
最終的に、この新しい中継車は単なる技術的アップグレード以上の意味を持ちます。分散型信号インフラと、中央集約的で使いやすい制御、そして緊密に統合されたコミュニケーションを組み合わせることで、CS live は現代のライブ放送の現実に対応したプロダクション・プラットフォームを構築しました。これにより、より迅速な意思決定、さらなる運用柔軟性、そして将来の技術への明確な道筋が、単一のまとまったシステム・アーキテクチャの中で実現されています。





A KICK-OFF FOR EFFICIENCY

SIMPLYLIVEを活用してイングランド・フットボール・リーグの制作を支える
IMG



■ イングランド・フットボール・リーグ (EFL) の試合が週末に数十試合も同時に開催される場合、リモート・プロダクションは戦略的なハイ・パフォーマンスの課題となります。IMGは、ロンドン西部のストックリー・パークにある自社の放送センターからこの需要に応え、RIEDELのSimplyLive Production Suiteを活用しています。これにより、欧州サッカーにおいて最も野心的なリモート・プロダクション体制のひとつを実現しています。

IMGは合計で週末に50～60試合を制作しており、その半数以上がSimplyLiveを通じて、効率的かつ柔軟に、そして大規模に、運用されています。



チャンピオンシップの会場からは6カメラ、リーグ1からは4カメラ、リーグ2からは2カメラのフィールドがこの体制の基盤となっています。これらの信号はすべて直接 SimplyLive Production Suite に送られ、オペレーターがライブ・スイッチング、リプレイ、重要なハイライト場面を管理します。

このシステムが際立っているのは、エンドツーエンドの柔軟性です。リプレイ・オペレーターは複数のカメラ・アングルを同時に確認でき、数秒以内に決定的な瞬間を見極め、価値あるリプレイやハイライト・シーケンスをほぼ即座に作成できます。この柔軟性はディレクターにも及び、ワークフローを個別にカスタマイズすることが可能です。なぜなら SimplyLive では、ワークフローを決めるのはシステムではなくオペレーターだからです。

/// SimplyLive の利点は、複数の出力がそれぞれ別々のグラフィックスを持つ点です。クライアントやパートナーのさまざまな要求に非常にコスト効率よく対応できることは私たちにとって非常に価値があります “

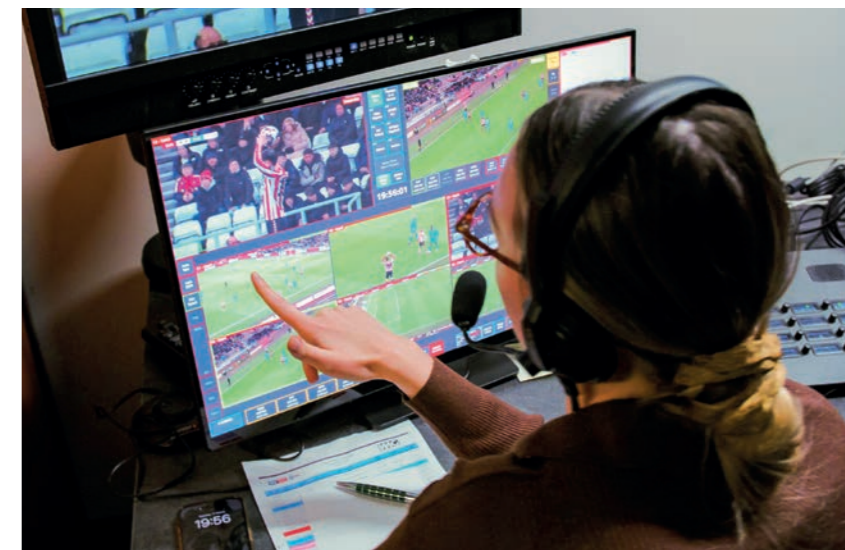
サラ・ロッホモア
Staff Director
IMG Studios

SimplyLive は試合終了後も明確なメリットを届け続けます。すべてのカメラ映像が即座に利用可能になるため、IMG チームはクラブ、審判団、権利保有者からの要望に迅速に対応できます。TV 放送であれ、ソーシャル・メディア向けコンテンツであれ、対応が速くなるだけでなく、最終的な出力の品質も向上します。

RIEDEK の SimplyLive Production Suite を導入することで、IMG は現代のプロフェッショナル・フットボールのリモート・プロダクションにおいて、最大の効率性を達成するために、ソフトウェア・ベースの制作環境がいかに強力であるべきかを示しています。同時に、柔軟性、拡張性、直感的な使いやすさを、現代のリモート・プロダクションの重要な基準として確立しています。

/// SimplyLive は直感的で使いやすいソフトウェア・ソリューションであり、より自然で効率的なワークフローを実現します。特に独りで放送を担当する場合に、強い安心感とコントロール感を与えてくれます。RIEDEL という信頼できるサポート・ネットワークがバックアップにあることで、安定性と安心感が得られ、高品質な放送配信に集中することができます “

ジョン・ネイラー
SimplyLive operator
IMG Studios



/// SimplyLive との作業は新しい経験であり、オペレーターたちに成長とスキル開発の機会を与えてくれました “

ブライアン・レオナルド
Head of Engineering
IMG Studios



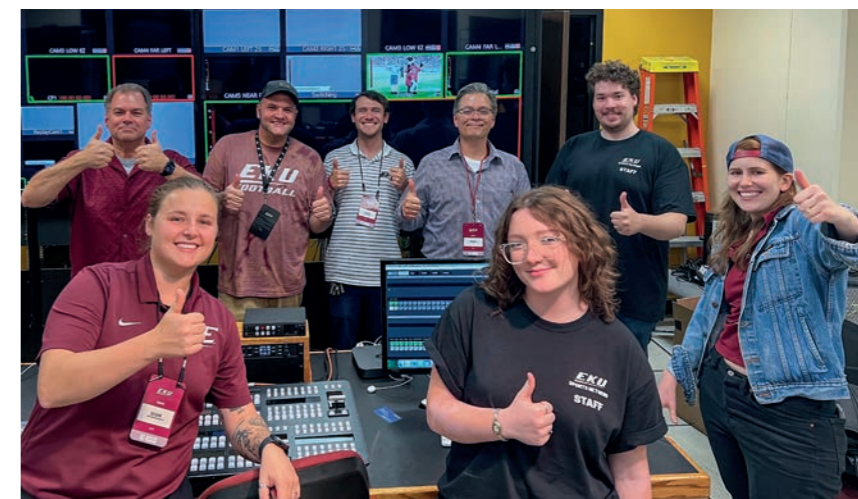
BUILT FOR TODAY'S SHOWS

AND TOMORROW'S TALENT

// EKUに初めて足を踏み入れたとき、彼らはすでに広範なファイバー・バックボーンを持っていましたが、それを十分に活用できていませんでした。ST 2110 ワークフローに移行し、MediorNet FusioN とエッジでの MuoN 処理を導入することで、運用者のワークフローを変えることなく、どこからでもどこへでもルーティングできる柔軟性を手に入れました。プロダクション・チームは、ソースのリマッピングやケーブルのパッチングをすることなく、コントロール・ルーム間を自由に切り替えることができます。また、新たなファイバー敷設を避けながら、SDI ソースをキャンパス内のどこからでもネットワークに取り込めるようになったことで、移行がよりスムーズで迅速、そしてコスト効率の高いものになりました。"

リッチー・マレー

Bridge Digital



EKU、RIEDEL を活用した ST 2110 インフラでキャンパス全体の制作環境を統合

■ イースタン・ケンタッキー大学 (EKU) は、RIEDEL の MediorNet ソリューションを基盤としたキャンパス全体をカバーする IP ベースのインフラを構築し、プロダクション環境の近代化に成功しました。Bridge Digital 社が設計と構築を担当したこの導入により、SDI から SMPTE ST 2110 ワークフローへの移行が実現し、複数の会場にわたる柔軟で拡張性のあるプロダクションが可能になりました。

新システムは、Alumni Coliseum、Perkins Building、Center for the Arts、およびその他の運動施設を、100 ギガビット光ファイバー・ネットワークで接続しています。この統合されたインフラにより、ライブ・プロダクションの増加に対応しながら運用とトレーニングの効率化を図り、キャンパス内のどこからでも必要なソースにアクセスできるようになりました。



EKUはハイブリッドST 2110アプローチを採用することで、既存のSDI投資を維持しながら、より柔軟で将来性のあるアーキテクチャを導入しました。「Bridgeのようなパートナーがいて本当に助かりました。彼らは多くの負担を軽減してくれ、互いにシームレスに連携するシステムを推薦してくれました」と、EKUのビデオ・システム・エンジニア、ドウェイン・ボリン氏は述べています。「私たちが本当に求めていたのは、一貫性と柔軟性であり、すでに持っているものを捨てることではありませんでした。ハイブリッドST 2110アプローチに移行したことで、レガシー機器を保持したまま、すべてが連携する統一されたシステムを構築できました。ユーザーはどの部屋に入ってもすぐに快適に作業でき、トレーニングが簡素化され、コストが削減され、将来に向けた準備も整いました」

システムの中核となっているのはRIEDELのMediorNet MuoN A処理SFPを搭載したCOTS IPスイッチです。これにより、ゲートウェイ変換、フレーム同期、HD-SDI処理を担い、既存インフラを統合しつつ、キャンパス・ネットワーク全体で効率的な信号伝送を実現する、高い適応性のある基盤を構築しています。

プロダクションの中心は、PerkinsとAlumni Coliseumの2つのメイン拠点となっており、すべての会場が既存のファイバー・ネットワークを通じて中央制御室に信号を送ります。これによって、追加のケーブル敷設が不要になり、複数カメラを使ったさらに複雑な制作も可能になりました。

/// FusioNの素晴らしい点は、
過去と現在を融合させ、
レガシー信号を現代のIPワークフローに
取り込めることです “

リッチー・マレー
President
Bridge Digital



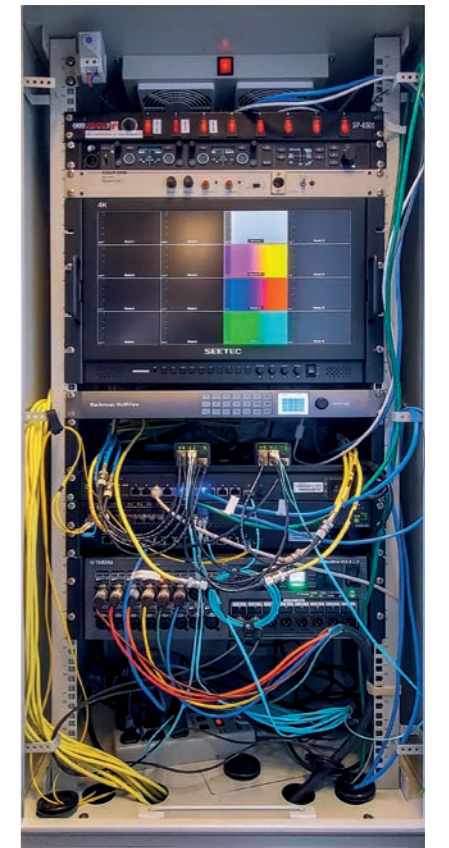
RIEDELのMediorNet FusioNフレームは、各会場においてローカルI/O、マルチビューイング、およびレガシー機器のシームレスな統合を実現します。システムのマルチキャスト構造と診断機能により、キャンパス全体にわたる監視と運用管理が大幅に簡素化されます。

コミュニケーションにはRIEDELのBoleroワイヤレス・インターカムとPunQtum有線パーティライン・システムを採用しています。これらを組み合わせることで、フィールドとコントロール・ルームの両環境において、プロフェッショナル・スタッフと学生スタッフの双方が利用できる、信頼性が高く柔軟なコミュニケーション・ワークフローを提供します。

この移行はすでにその価値を証明しています。EKUはシステムの試運転直後から、ライブ・スポーツ中継の配信に成功しました。新たなインフラは、制作品質の向上、セットアップの複雑さの低減、そしてメディア・ライブ・プロダクション業界を目指す学生たちにとっての実践的な学習環境の創出に寄与しています。「学生たちこそが私たちの導きの星なのです」と、EKUコミュニケーション&ブランド・マネジメント部門エグゼクティブ・ディレクターのサラ・ベイカー氏が語ります。「私たちが行うすべての投資は、学生たちの経験を向上させ、彼らの未来を準備するためのものです。このシステムは、まさにその目的を果たしています」

/// フィールド通信にはBoleroを、
コントロール・ルーム全体には
PunQtumを使用していますが、
この組み合わせは非常に強力です。
クリアな音質、柔軟性、そして使いやすさが、
クルーの運用方法に大きな違いをもたらしてくれました。
より明確なコミュニケーション、
トラブルシューティングの削減、
そして学生たちのトレーニングに充てられる時間の増加が、
ショーのクオリティを直接向上させ、
学生たちを業界に向けてよりよく準備させています “

ケーティ・アドキンス
Assistant Director of Broadcasting & Video,
EKU

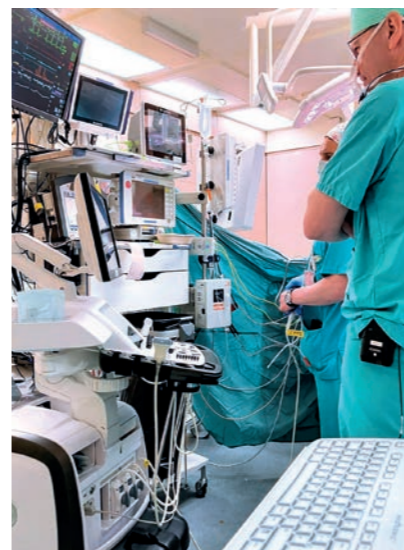




VISAR 2025

放送技術が医学を変革する時

■手術室で極めて複雑な処置が行われ、一秒一秒が重要となる場面では、コミュニケーションや画像・信号の伝送が大きな違いを生みます。現在、音声映像技術はますます重要性を増しており、医療プロセスにおける共同作業やリアルタイムの洞察に新たな可能性を開いています。これが、2025年末に開催された「Vienna Interdisciplinary Symposium on Aortic Repair (VISAR)」で実証されました。同シンポジウムでは、RIEDELの統合セットアップにより、複数の手術をライブ伝送し、国際的な医療専門家との双方向の意見交換を実現しました。VISAR 2025は、大動脈および心臓弁手術に焦点を当て、ウィーン総合病院の3つの手術室から並行してライブ中継されました。特に注目すべきは、これが単なるライブ・ストリーミングを超えた点です。手術チーム、モデレーター、そして聴衆との間で直接的なやり取りが可能になったのです。



病院環境という特殊な条件下で安定かつ制御された通信を確保するため、個々の手術室にローカルで分離された Bolero ネットワークを Bolero Bridge で相互接続し、中央管理しました。また、RIEDELの Remote Operations Center (ROC) がセキュアな IP リンクで確立されたサイト間接続を監視しました。

会議ホールでのライブ・ビデオ制作は SimplyLive Production Suite を使用して実現されました。これにより、手術室間の柔軟な切り替えや、特定のシーケンスのターゲット再生が可能になり、複雑な外科手術を観客が理解しやすくなりました。このセットアップは、MediorNet MicroN をマルチビューア・ソリューションとして補完し、手術のライブ映像とプレゼンテーションを並行して視覚化できるようにしました。

VISAR コングレスの技術的実現により、RIEDEL は同イベントだけでなく、医療分野全体に対する新たな基準を打ち立てました。これにより、世界中の医療機関に新たな可能性が開かれています。

医療施設におけるプロフェッショナル AV ソリューションの新たな可能性

VISAR コングレスは、医療分野におけるプロフェッショナル AV 技術の役割が拡大している一例に過ぎません。ドイツ/オーストリア/スイス地域の専門的な隔離ユニット（例：ベルリンのシャリテ病院）では、RIEDEL のインターカム・ソリューションが、保護服を着用した状態や人工呼吸器による高騒音下という厳しい環境においても、医師と臨床スタッフ間のコミュニケーションを支えています。インターカムのデスクトップ・パネルは監視室との接続を維持し、専用のスピーカーと室内マイクを介して患者とのコミュニケーションも可能にしています。

同様のソリューションは、高セキュリティ研究所やロボット医療分野でも活用されています。例えばノルトライン＝ヴェストファーレン州にあるグロナウ病院では、インターカム技術がロボット外科医、麻酔科医、看護スタッフ間の調整をサポートしています。

RIEDEL のマネージド・テクノロジー部門は、Artist および Bolero インターカム・システム、MediorNet、SimplyLive Production Suite で構成される統合エコシステムによる完全な技術インフラを提供しました。

Bolero および Bolero S ベルトパックを使用することで、医療スタッフは手術中に手術室から直接会議ホールと通信し、質問に答えたり、自身の医療アプローチを説明したりすることが可能になりました。これにより、手術のワークフローを乱すことなく対応できました。観客に音声を届けるため、インターカム信号は StageLink Network Stream Adapters を介して会議ホールの PA システムに送られました。

/// VISAR の技術要件は従来の医療会議のそれとは大きく異なります。RIEDEL と協力したことで、この複雑なコンGRESSを確実に実現できるという確信が持てました。"

マーティン・フノヴィクス博士
Member of the VISAR
Executive Committee



CLEAR COMMUNICATION BEHIND THE CURTAINS

テアトロ・アッラ・スカラ向けの RIEDEL インターカム・ソリューション

■ イタリアを代表する名門劇場の幕が上がる時、舞台裏のコミュニケーション技術に妥協は許されません。舞台監督、照明技師、音響技師、演出家など、すべてのスタッフがリアルタイムで完璧に連携する必要があります。昨年、Riedel Communications は、スカラ座財団と協力し、Bolero ワイヤレス・インターカムを中核とした統合コミュニケーション・プラットフォームを納入しました。これに StageLink NSA、RiFace、PunQtum が組み合わせられています。

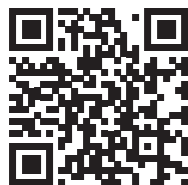
Bolero が導入される以前、スカラ座ではさまざまな通信技術が混在しており、統合がほぼ不可能でした。また、階段やエレベーター、オーケストラ・ピットなどの音響的に敏感なエリアという建物の構造的条件も、大きな課題となっていました。

新しいインフラを導入したことによって、チーム全体がシームレスに繋がるようになりました。RiFace により、リギング・クレーン向けに最大 45 の UHF チャンネルを統合し、NSA がストリーミング・チームのシステムとの連携を可能にします。PunQtum が共有コミュニケーションに必要な柔軟性を提供します。このシステムは現在、舞台から舞台裏まで、建物の主要エリアすべてで使用されています。これにより、部署を越えた円滑なコミュニケーションが可能になりました。

この新しいコミュニケーション・インフラは、コラボレーションの向上だけでなく、長期的な運用価値ももたらしています。Bolero の高い信頼性により、メンテナンスやダウンタイムが大幅に削減され、統一されたアーキテクチャによって機器の無駄と運用コストも低減されました。また、直感的なユーザー・インターフェイスのおかげでトレーニング負担が軽減され、ワークフローが加速しました。セットアップの迅速化と部署間のよりスムーズな調整が実現されました。Riedel Care メンテナンス・プランによって、世界最高峰のオペラ・ハウスの一つ、スカラ座では、システムの長期的な性能と耐久性が保証されています。



さらに詳しくは
ビデオ・ケース・スタディを
ご覧ください！



FROM CONFETTI TO CONNECTIVITY

ケルンでの RIEDEL と Haivision の協業：Easy5G がケルン・カーニバルで実証

■ 無線によるビデオ伝送は、長らく放送制作において大きな可能性を秘めた技術として注目されてきました。柔軟性が高く、新たなクリエイティブな表現を可能にします。しかし、帯域制限、計算能力の不足、効率的な圧縮の必要性といった技術的制約から、厳しいライブ環境での本格的な採用は長年制限されてきました。近年、特にプライベート 5G ネットワークの進化により、新たなワークフローの扉が開かれつつあります。ケルンのカーニバル・シーズン開幕に合わせて、Riedel Communications と Haivision は、両社の技術を組み合わせ合わせた強力な柔軟なビデオ・ソリューションを現場から直接実証しました。

この協業により、Haivision の製品が今後、RIEDEL のマネージド・テクノロジー・サービスの一部として提供されることになり、RIEDEL のポートフォリオがさらに多様化します。RIEDEL のプライベート 5G ソリューション Easy5G がこれを補完し、計画段階から運用までをマネージド・テクノロジー・チームが技術的にサポートする完全統合型のパッケージが完成します。

このシステムは、2025 年 11 月 11 日、WDR によるカーニバル開会式のライブ放送で初めて本格的な実践テストを行いました。結果は大成功を収めました。ケルンのホイマルクト（旧市街の歴史的広場）全体を、2 台の Easy5G ベース・ステーションによるプライベート 5G ネットワークで確実にカバーしました。WDR の 10 台のカメラのうち 2 台を、Haivision の 5G トランスミッターを使って無線運用。1 台は固定位置で観客席を狙い、もう 1 台は動きのあるイベント会場内を移動しながら撮影しました。Haivision のトランスミッターは、SDI 信号を IP に確実に

変換し、低遅延で Easy5G ネットワークを経由して、WDR の中継車内に設置された Haivision Streamhub レシーバーへ伝送しました。従来の無線リンクを使わず、プライベート 5G ネットワークを活用した堅牢で柔軟なカメラ・ワークフローは、非常に印象的な結果をもたらしました。

しかし、このパートナーシップの可能性は無線カメラ用途だけにとどまりません。Easy5G は、さまざまな制作アプリを同じインフラ上で並行して運用できる点に大きな強みがあります。例えば、スマートフォン上で Virtual SmartPanel を介してインターカム・アプリを制御しながら、同時にビデオ・ストリームを伝送することも可能です。これにより、通信、ビデオ伝送、その他の IP ベースのアプリケーションを 1 つの共通インフラに統合したエコシステムが実現します。制作会社にとっては、複雑さの軽減、プロセスの明確化、インターフェイスの削減といった大きなメリットが生まれます。



どこでも展開、どこでもパフォーマンスを発揮
——多様な業界での応用

Easy5G は、イベントやフェスティバル分野においても新たな可能性を開きます。高密度環境でも低遅延で安定した接続を提供します。WiFi ネットワークのように迅速に展開でき、基地局の追加やアップリンク/ダウンリンク比の調整、ネットワーク・スライシングなどのパラメータ変更により、柔軟にスケールリングします。制作インターカム、無線ビデオ、モニタリング、一時的なインターネット・アクセスなど、イベント主催者は複数の用途を 1 つのプラットフォームに集約した、コスト効率の高いインフラを活用できます。

RIEDEL の Easy5G は、フェスティバルやレーシング・スポーツなどのマルチ・スポーツ・イベントへの臨時展開はもちろん、スタジアムや放送施設などの常設ネットワーク、さらには産業・企業環境への導入にも対応します。既存のバックボーンへのシームレスな統合、eSIM による簡単なユーザー認証、ビームフォーミング（電波を特定の方向にピンポイントで飛ばす技術）や高度なハンドオーバー技術により、厳しいライブ環境でも信頼性の高い接続性を確保します。

BROADCAST SETS SAIL



RIEDEL と Media Tailor が 『スター・オブ・ザ・シーズ』 に乗船

■ **ロイヤル・カリビアン・インターナショナル** は 2025 年夏、世界最大級で最も野心的なクルーズ船の一つである「スター・オブ・ザ・シーズ」を就航させました。アイコン・クラス（同社の最大級の最新クルーズ客船）に属するこの船は、全長約 365 メートル、20 デッキを有し、姉妹船「アイコン・オブ・ザ・シーズ」とともに、世界最大のクルーズ船の称号を共有しています。



この船は「フローティング・ワールド」をコンセプトに設計されており、多彩なテーマ・エリア、レストラン、プール・エリア、そして豊富なエンターテインメント施設を備えています。毎日行われるライブ・ショーから大規模なマルチメディア・プロダクションまで、幅広いエンターテインメントを提供します。船内には劇場、ライブ・ステージ、さまざまなマルチメディア・エリア、アイス・アリーナ、水上アリーナなど、30 を超えるエンターテインメント会場があります。船上での制作という観点では、多数の異なるフォーマットと並行して発生するさまざまな要件を、すべてシームレスに同時に運用する必要があります。

RIEDEL と Media Tailor：チーム一体となった統合

ロイヤル・カリビアンは要件が当初から明確でした。単に放送、AV、通信システムを接続するだけでなく、これらを 1 つの統一された使いやすい運用環境に統合することです。ここで、RIEDEL が長年のパートナーである北欧のメディア技術会社 Media Tailor と協力して対応しました。「スター・オブ・ザ・シーズ」には、このパートナーシップのもと、包括的な放送 / AV / 通信インフラが搭載されました。システムの基幹となるのが分散型の MediorNet ネットワークです。このネットワークは、ルーティング、信号処理、マルチビューイングを分散処理で行い、スペースの削減と配線の簡素化を実現するとともに、公海上での運用信頼性を大幅に向上させています。

hi human interface – One Control Solution – One Cruise Ship

RIEDEL の新制御ソリューション hi human interface が船上でも重要な役割を果たしています。合計 3 台の hi サーバーが船内のエンターテインメント制御システム全体の基盤を形成しています。操作は、ハードウェア・パネルに加え、PC や iPad 上のソフトウェア・ソリューションでも行うことができ、制御室やイベント・スペースに直接、システム全体の制御機能を提供します。

ショー中の最大限の柔軟性と安全性を確保し、ビデオ再生をスムーズに実行するとともに、すべての信号を正しい目的地へ確実に届けるため、hi は船上のさまざまなシステム・ユニットを接続します。船内のすべての MediorNet ネットワークと Dante ネットワークを統合し、音声信号のルーティング、エンベデッド SDI 音声信号の自動変換、統一された映像音声ソースの提供などを行います。

/// この規模の放送・AV 環境を構築するには、シームレスに連携する統一システムが不可欠です。それを可能にしてくれるのが RIEDEL です。RIEDEL の分散型アーキテクチャにより、オペレーターは映像、音声、データをリアルタイムで極めて効率的に、かつ高い冗長性を保ちながら船全体にルーティングできます。

これは洋上の真ん中で運用する際には特に重要です //

トウオマス・ニエメラ
Business Director Shipbuilding
Media Tailor



船上でのシームレスなコミュニケーション

音声や映像だけでなく、通信技術も完全に一体化された統一エコシステムに組み込まれました。RIEDEL の Artist インターカム・システム (Artist-1024 マトリクス、50 台以上の SmartPanel、55 個の Bolero ベルトパック、PunQtum パーティライン・システムで構成) により、すべての個別ソリューションが 1 つの拡張可能なエコシステムに接続され、異なる甲板や会場にいるチーム同士がシームレスに繋がることが可能になりました。

「スター・オブ・ザ・シーズ」において、RIEDEL と Media Tailor は再び、高度に複雑な海洋プロジェクトにおける技術パートナーとしての役割を強調しました。これにより、現代のクルーズ船が本格的な放送 & エンターテインメント・プラットフォームへと進化していることが示されています。

/// Media Tailor と RIEDEL は、再び当社の船舶に、比類のない柔軟性と運用効率を提供する放送・通信・AV インフラを統合的に構築してくれました。彼らの専門性により、私たちのチームは世界中のどこにいても、ゲストの方々に素晴らしいライブ体験を毎日お届けできるという自信を持っています //

クリストファー・ヴラソプロス
Manager Newbuilding
Royal Caribbean

hi HUMAN INTERFACE



hi human interface はブラウザ・ベースのベンダー非依存型制御システムで、複雑なメディア・インフラを簡素化し、放送システムの設定 / 制御 / 運用方法を変革するために設計されています。このプラットフォーム非依

存のインターフェイスにより、オペレーターは複数の機器を同時に管理することが可能となり、1 つのハードウェア・ソリューションだけで柔軟性、使いやすさ、シンプルさ、そして拡張性を実現します。



**RHINE-RUHR
2025**

FISU WORLD UNIVERSITY GAMES SUMMER

FROM THE RUHR VALLEY TO THE WHOLE WORLD

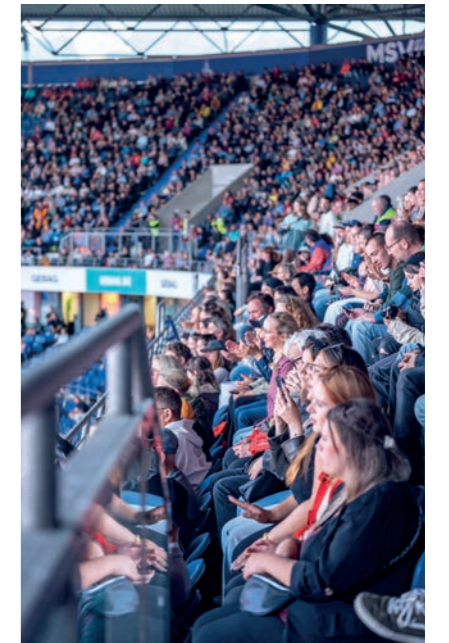
2025 年 FISU ゲームズにおける RIEDEL

■ 数千人の国際的な若手アスリート、18 競技、23 の競技会場、そして最大 22 の制作が並行して進行する——ここで重要なのは競技パフォーマンスだけではなく、特にその裏側を支えるインフラです。FISU 世界大学スポーツ大会 Rhein-Ruhr (ライン＝ルール) の公式パートナーとして、Riedel Communications は 2025 年夏に大会全体の通信・ネットワーク・インフラを全面的に提供しました。開会式の号砲から閉会式まで、RIEDEL のマネージド・テクノロジー・チームが、国際放送センター (IBC) エッセンにおいて、安定した接続、明瞭なコミュニケーション、そして全プロセスの中央制御を担当しました。



これらの競技はルール地方全体にわたって開催されたため、高度にスケーラブルなインフラが必要でした。そこで RIEDEL は、すべての会場をエッセンにある IBC に接続するため、約 53 キロメートルのマルチ・コア光ファイバー・ケーブルを敷設しました。次に、現場に専用のネットワーク・オペレーション・センター（NOC）を設置し、すべてのシステムをリアルタイムで監視&制御できる体制を整えました。

Artist および Bolero インターカム、そして運用の中核を担う MediorNet が、このインフラの中心でした。アリーナ内では、6 台のネットワーク接続された Artist フレームと約 40 個の Bolero ベルトパックを使用して通信を行いました。屋外では、さらに 4 台の MediorNet ステージボックスが使われました。また、すべての音声信号は Dante ネットワークを介してやり取りされました。一部の競技では、審判員向け通信として Bolero S-RefComms システムも活用されていました。このセットアップは、RIEDEL の Juggler 技術によってさらに強化され、Tetra 無線、Bolero、Artist を相互運用可能なプラットフォームに接続されました。これにより、組織運営、警備、制作チーム間のシームレスなコミュニケーションを実現しました。

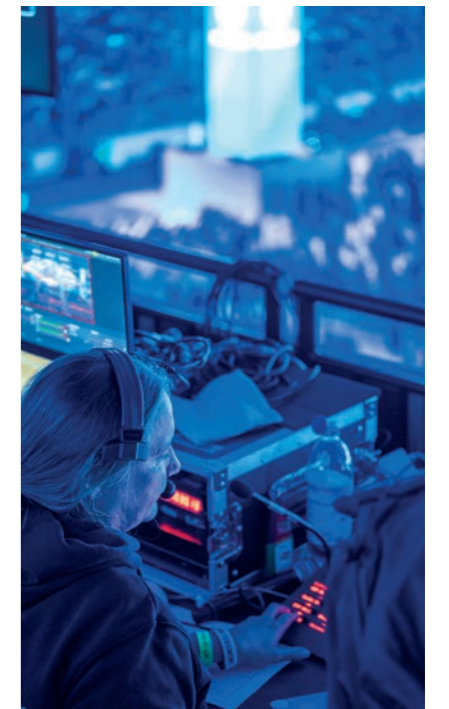


22 の制作と 1 つの中央目標

この期間中、最大 22 の並行制作が実施され、これらは 13 両の中継車と約 470 人の専門スタッフによって監督されました。各スポーツ競技は現地で個別に制作され、信号は光ファイバー・ケーブルを介して IBC に送信されました。そこで中央でチェック、切り替えが行われ、その後配信されました。これらの信号は、中央のマスター・コントロール・エリアに集約されました。MTI (MTI Teleport München GmbH: ドイツの有料メディア基盤事業者) は、会場に設置された技術コンテナ内でメディア伝送プラットフォーム Nimbra システムを用いて集信を処理しました。各コンテナにはメイン送出、クリーン送出、バックアップ、返送チャンネルが備えられていました。

IT インフラも RIEDEL が構築しました。会場と IBC を結ぶ中央ネットワークは、インターカム・システム、インターネット・アクセス、特殊アプリケーションをサポートしていました。また、RIEDEL は数百台の端末装置を提供し、全ての運用プロセスにおける技術的基盤を構築しました。

複数の会場と国際放送センターを結ぶ 53 キロメートルの光ファイバー・インフラにより、Rhine-Ruhr 2025 FISU Games は、現代のライブ制作環境が強力に相互接続されたネットワークによってどのように構築されるかを示す好例となりました。通信、信号配信、IP ベースのワークフローを 1 つの統一されたインフラに統合することで、このイベントは単なる技術的な成果を超えたものとなりました。それは、世界中のアスリートを数百万人の視聴者につなぐ基盤を生み出し、先進的なメディア・ネットワークがいかによりリアルタイムでグローバルなスポーツの瞬間を共有することを可能にするかを証明するものでした。



オリジナル英語版

IMPRINT

Published by
RIEDEL Communications GmbH
Uellendahler Str. 353
42109 Wuppertal
Germany
www.riedel.net
Editorial Director: Julian Bühlhoff
Contact: julian.buelhoff@riedel.net

© 2026 RIEDEL Communications GmbH
All rights reserved. Windows is a registered trademark of Microsoft Corporation. All trademarks are the property of their respective owners. Product specifications are subject to change without notice. This material is provided for information purposes only; RIEDEL assumes no liability related to its use. April 2026.

EXPANDING WITH PURPOSE

RIEDEL、アメリカ大陸におけるマネージド・テクノロジーを強化

Jan Schaffner
VP Managed Technologies Americas
Riedel Communications

Lutz Rathmann
CEO Managed Technology
Riedel Communications

■ Riedel Communications は、米州地域におけるマネージド・テクノロジー事業の拡大を加速させ、長期的な市場開発の新たな段階を迎えています。この取り組みの一環として、ヤン・シャフナーが「Vice President, Managed Technology Americas (バイス・プレジデント、マネージド・テクノロジー米州担当)」に就任し、同地域での次の成長段階をリードすることになりました。

今回の人事は、顧客ニーズの大きな変化を反映したものです。スポーツ中継やライブ・プロダクションの分野において、企業は従来の機器供給を超えた、技術・ワークフロー・運用ノウハウを組み合わせた柔軟なサービスベースのモデルをますます求めています。RIEDELのマネージド・テクノロジー事業部は、このニーズに応えるため、製品/サービス/運用専門性を統合したソリューションを提供し、特定のワークフローに合わせた最適なソリューションを実現しています。

この拡大は、ここ数年にわたって築いてきた基盤の上に成り立っています。RIEDELのマネージド・テクノロジー事業部は、米州地域で構造化された市場開拓アプローチを構築し、スケーラブルで地域に根ざした体制の基礎を固めてきました。この戦略を支えるため、北米ではロサンゼルスとノースカロライナ州コンコードにマネージド・テクノロジー・ハブを設置し、現地にチーム、インフラ、リソースを配置しています。これにより、特にプロスポーツやモーター・スポーツなどの主要分野において、顧客に近い距離でサポートを提供することが可能になります。この戦略の中心にあるのはコラボレーションです。RIEDELは現地のレンタル・プロバイダーやパートナーと競合するのではなく、高度に専門化されたソリューションや複雑なプロダクション環境に特化し、既存のサービスを補完する形で貢献します。自社製品と独自技術、運用ノウハウ、専任サービス・チームを組み合わせることで、レンタル・パートナーやシステム・インテグレーターと連携し、大規模プロダクションを成功に導きます。

RIEDELの姿勢は明確です。「現地に投資し、協業を重視し、長期的な存在感を築く」。ヤン・シャフナーは次のように述べています。「私たちはここに留まるために来たのです」



Lutz Rathmann
CEO Managed Technology
Riedel Communications

ルッツとヤンとのインタビュー

ヤンは2018年にRIEDELに入社し、同社のマネージド・テクノロジー事業をアメリカ大陸で展開する上で重要な役割を果たしてきました。新たな役割では、アメリカ大陸におけるマネージド・テクノロジー事業部門のさらなる成長をリードし、持続可能な拡大、現地市場への適合、そして運用上の卓越性を重視していきます。今回、彼とマネージド・テクノロジー部門CEOのルッツ・ラートマンにインタビューを行い、RIEDELがアメリカ市場にどのようにアプローチしているか、最大の機会がどこにあるのか、そして同社がこの地域でどのように長期的なプレゼンスを築いているかについて話を聞きました。

アメリカ大陸でのマネージド・テクノロジー拡大に、今が適切なタイミングである理由は何ですか？
ルッツ：お客様がテクノロジーに取り組む姿勢に明確な変化が見られます。過去、特に米国では「所有」するモデルが主流でした。しかし現在は、サービス・ベースのアプローチに対するオープンさが大幅に高まっており、お客様はインフラそのものではなく「成果」を求めています。同時に、制作環境は大幅に複雑化しています。ワークフローがより密接に連携し、技術の進化が速くなり、イノベーションへのプレッシャーも高まっています。この組み合わせが、統合されたサービス・モデルに対する需要を生み出しており、まさにそれがマネージド・テクノロジーの役割なのです。

アメリカ市場は何がユニークなのですか？
ヤン：特に米国の市場は、他の地域とはかなり異なる形で運営されています。ワークフロー、期待値、働き方などに明確な違いがあります。だからこそ、私たちは「そのままコピー&ペーストする」というアプローチをあえて取りませんでした。市場がどのように機能しているのか、どこで価値を提供できるのかを十分に理解する時間をかけました。大切なのは、他地域のモデルをそのまま持ち込むのではなく、お客様が実際にどのように事業を運営しているかに本当に合ったソリューションを構築することです。

グローバル戦略と現地での実行をどのようにバランスさせていますか？

ルッツ：当社は一律のモデルを当てはめることはありません。大切なのは、グローバルな専門知識と強力な現地実行力とを組み合わせることです。そしてこの現地要素が極めて重要なのです。技術を理解しつつ、その地域でビジネスがどのように行われているかを深く理解している人材を現地に配置する必要があります。それが、当社のグローバルな能力を現地の要件に結びつけることを可能にします。

RIEDELの製品部門とマネージド・テクノロジーはこのモデルの中でどのように連携していますか？

ルッツ：当社にとって、それはお客様に柔軟性を提供することです。技術を自社で所有する形態から、完全にマネージド・サービスとして消費する形態までをスペクトラムとして考えることができます。これを強力にしているのは、その組み合わせです。製品、サービス、そして運用に関する専門性を統合し、それを特定のユース・ケースに合わせてカスタマイズします。お客様の要件は固定されたものではありませんので、このようなアプローチをますます評価していただいております。

現在、最大の機会はどこにあると考えていますか？

ヤン：モーター・スポーツは非常に強い成長分野です。これは高度にワークフロー駆動型の環境であり、チーム間、オフィシャル、制作チーム間のコミュニケーションが極めて重要です。当社は国際的なレーシング・シリーズで培った経験を活かしつつ、現地のパートナーシップと組み合わせることで、それらのワークフローを進化させる支援をしています。同時に、プロフェッショナル・スポーツ全般で強い需要が見られており、特にリーグがコミュニケーションと運用効率の向上を目指している領域で顕著です。

この成長を支えるために、組織をどのように構築していますか？

ヤン：非常に計画的に進めています。需要に基づいて成長し、必要な場所に適切な能力を構築することに注力しています。エンジニアリング、プロジェクト管理、現地専門知識などです。できるだけ速く拡大するのではなく、持続可能なものを構築することを目指しています。

ルッツ：そして、それは適切な人材の確保も含まれます。このようなビジネスでは、しばしば技術ではなく専門性が制限要因となります。そのため、私たちは約束したことを実際に実行できる強いチームを構築することに重点を置いています。



Jan Schaffner
VP Managed Technologies Americas
Riedel Communications

さらなる拡大において、パートナーはどのような役割を果たしますか？

ヤン：パートナーはエコシステムの基本的な一部であり続けます。大切なのは、当社が市場に参入してパートナーのビジネスを奪うことではないということです。その代わりに、当社は特に最も複雑で統合された環境において、価値を追加できる領域に焦点を当てています。

今後数年間で、南北アメリカ地域における成功をどのように定義しますか？

ヤン：強力な現地チームと長期的な顧客関係を伴う、持続可能なビジネスを構築することです。

ルッツ：そして、信頼される現地プレイヤーになることです。単に市場で活動するだけでなく、その市場の一部となることです。それを達成すれば、成長は自然とついてきます。



A VIEW THAT CHANGES THE GAME

試合現場での RefCam

■ トップレベルのスポーツでは、わずかな秒が勝利と敗北を分けることがよくあります。さまざまな競技の審判にとって、それは何百人ものファン、選手、コーチの視線の中で、稲妻のように素早く公正な判断を下すことを意味します。しかし、選手の動きはすでにさまざまなカメラ・アングルから撮影され、後で分析されている一方で、審判の視点はこれまで長らく「見えない」ままでした。そこに登場するのが RIEDEL の RefCam です。審判の目から直接ゲームを捉えることで、試合にまったく新しい視点を提供します。



科学的パートナーとの連携は
審判基準の向上に不可欠です。
RefCamのような革新的な技術プロジェクトは、
品質保証に重要な役割を果たすだけでなく、
審判教育とトレーニングに
新しい洞察をもたらします “

カーステン・シュトラウベ
Band C Squad
Referee Manager
DBB

重さわずか 14 グラムのカメラ・ユニットが、審判員のヘッドセットに目立たない形で組み込まれており、1080p または 720p の高解像度映像を最大 59.7Hz で配信します。広角レンズ、自動露出調整、電子式手ブレ補正により、激しい動きのスポーツ・イベントでも安定した撮影を実現します。このカメラの最大の特長は、審判員にとってほぼ存在を感じさせないほど目立たない点にあります。これにより、スポーツのダイナミックな動きに柔軟に対応することが可能です。

RefCam には 2 つのバージョンがあります：HD 画質でのリアルタイム映像伝送を行う RefCam Live と最高画質でローカル録画する RefCam Record です。このカメラは RIEDEL の Bolero、Easy5G、MediorNet などの他のソリューションと容易に統合でき、さまざまなヘッドセット・タイプと組み合わせることで、インターカム通信と映像伝送を両立させることができます。

RIEDEL の RefCam はスポーツの歴史においてこれまで以上に審判員の視点を提供し、現代のスポーツ制作に欠かせないものとなりました。コーチング、分析、スポーツのストーリーテリングに新たな可能性を開きます。



プロ・バスケットボールとハンドボールにおける新たな興奮の視点

2024 年以降、サッカー界で——トップリーグや主要な国際クラブ大会での導入を含む——大きな成功を収めている RefCam は、現在、他のスポーツやハイレベルなリーグへもその活躍の場を広げています。

観戦体験の向上に加えて、RefCam は審判のトレーニングと教育においても新しい視点を提供します。ドイツ・バスケットボール連盟 (DBB) およびドイツ・スポーツ大学ケルンとの協力のもと、このシステムは初めて 2 部バスケットボール・リーグで試験導入されました。2024 年 12 月 28 日に行われた EPG バスケッツ・コブレントス対ボジッチ・エストリヒエ・ナイツ・キルヒハイムの試合で、RefCam は科学的研究プロジェクトの一環として使用されました。この取り組みの目的は、バスケットボール審判の意思決定を向上させるための包括的なトレーニング・コンセプトを開発することです。音声と映像の素材により、初めて審判の視点から試合状況を分析することが可能になります。RefCam は審判コーチにとって、ワークフローや意思決定プロセスをより深く理解し、最適化するための貴重なツールとなります。

RefCam は国際的なトップレベル・スポーツでも既に使用されています。デンマークのヘルニングでは、EHF EURO 2026 男子選手権の最終週末に、準決勝とメダル決定戦のライブ放送で使用され、カメラ映像は、RIEDEL の Easy5G プライベート 5G ネットワークを介して、世界中のテレビ制作会社にリアルタイムで送信されました。信頼性の高いライブ放送に加えて、録画映像は審判と選手間のコミュニケーションについてより深い洞察を提供しました。ファンはこれまで以上に試合に近い、新しい視点を楽しむことができました。

RefCam はこれまで以上にファンを試合の中心に近づけます。
この導入は、EHF が最先端の放送技術を積極的に取り入れ、
アリーナにいる観客だけでなく、
世界中の何百万人もの視聴者の観戦体験を
継続的に向上させるという、
より大きな使命を強調するものです “

マーチン・ハウスライトナー
Secretary General
EHF



ADVANCING US MOTORSPORT

Racing Electronics と
Riedel Communications の
戦略的パートナーシップ



■ スピード、精密さ、そしてシームレスなコミュニケーション——これらは現代のモーター・スポーツの基盤です。米国のレーシング・コミュニケーション機器のリーディング・プロバイダーである Racing Electronics と Riedel Communications は、昨年末に戦略的パートナーシップを締結し、これらの能力をさらに高めることになりました。

この提携の目的は、米国モーター・スポーツ業界に新たな基準を打ち立てること、そしてレース・コントロール、チーム、ドライバー、そしてファン全員にとっての安全性、効率性、そして最高のパフォーマンスを支える基盤を強化することです。

このパートナーシップの特長は、互いに補完し合う二つの強みを組み合わせている点にあります。一方は、Racing Electronics が持つ米国モーター・スポーツにおける長年の経験です。同社は何世代にもわたり、北米の各レーシング・トラックで信頼される存在として、レーシング・シリーズやチームに専門の無線通信機器とアクセサリを提供してきました。

もう一方は、Riedel Communications が持つ国際的な専門性です。RIEDEL は先進的なインターカム・システムと信号分配システムの開発&展開で豊富な実績を持ち、特に柔軟性と強力な性能を誇る Artist-1024 インフラや Bolero ワイヤレス・インターカム・システムを提供しています。この両社の協力により、最先端の技術と深い市場知識を融合した包括的なソリューションが生まれます。

今回のパートナーシップにより、Racing Electronics の既存施設をさらに強化し、RIEDEL が新たにモーター・スポーツ・コンピテンシー・センターを設立します。これらのセンターは、技術力と人材リソースを統合し、米国内だけでなく将来的には国際的なレーシング・イベントへのサポートも可能にします。

RIEDEL のインターカムおよび信号分配システムと、Racing Electronics の深い市場専門知識を組み合わせることで、クリアで途切れない信頼性の高い通信システムを提供します。また、カスタム成形イヤピースやフル装備のヘルメット・キット、トラック・サイドでのフルサービス・レンタルなど、幅広い顧客サポート・サービスも提供されます。チームや顧客の具体的なニーズに精密に対応することが可能です。

技術革新に加え、サステナビリティも両社の重要な優先事項です。ノースカロライナ州コンコードに設立されるモーター・スポーツ・リモート・オペレーション・センターは、その大きな一歩となります。リモート・ワークフローと迅速な対応を実現することで、共同運営におけるカーボン・フットプリントを大幅に削減します。

この戦略的パートナーシップを通じて、RIEDEL と Racing Electronics は、米国モーター・スポーツの進化を支える未来志向のインタラクティブなプラットフォームを構築しています。

I'M AN ARTIST

JOHN SCHUELER
DIRECTOR - EVENT TECHNICAL OPERATIONS
www.wwe.com

Artist と Bolero は放送業界全体を変革したゲームチェンジャーであり続けています。音声の品質とカバレッジが私たちにとって最も重要です。だからこそ、何年も前に RIEDEL に切り替えたのです。

現在は Artist-1024 を用いて、全部門間でクリアなコミュニケーションを保証する通信を提供しています。"

ARTIST INTERCOM

プロフェッショナルで信頼性の高いライブ・コミュニケーションを実現。RIEDEL の SmartPanel と Bolero ワイヤレス・インターカムをシームレスに統合。16ポートから1024ポートまで容易に拡張可能で、柔軟なライセンス体系を採用。



Become an ARTIST
www.riedel.net
[#iamanartist](https://twitter.com/iamanartist)

East Shore Sound による 高帯域ネットワーク構築と MediorNet

ドリュー・マーチン著 / Riedel Communications ビデオ製品管理責任者

■ RIEDEL の MediorNet は分散型 TDM ベースのメッシュ・ネットワークで、あらゆる用途に対応できる可能性を秘めています。しかし、East Shore Sound の社長であるビル・ソルツァー氏によると、その分散型アプローチには、これまでとは少し違う新しい発想が必要だそうです。

放送およびライブ・プロダクション業界が SDI から IP への移行を着実に進めていく中で、ハイブリッド・ソリューションが伝統的なワークフローと最先端の IP 技術を賢く融合させる手段として注目されています。これらのソリューションは、ベース・バンド・システムと先進的な IP 技術を橋渡しし、オペレーターが両者のメリットを最大限に活用できるようにします。Riedel Communications の使命は、この移行プロセスをシンプルにし、クライアントが現代のプロダクション環境の要求に応えられるよう、不要な混乱を最小限に抑えることです。その好例として、Videlio Events 社が当社の受賞歴のある MediorNet Horizon プラットフォームを導入した事例が挙げられます。この導入により、同社はフランス国内で連続して開催される複数のイベント向けに、臨時的ハイブリッド環境を構築することが可能になりました。

East Shore Sound の社長であるビル・ソルツァー氏にとって、仕事の毎週はいつも違った内容になります。2001 年にアメリカのメリーランド州で設立された East Shore Sound は大規模な臨時放送ネットワークの設計と管理において非常に高い評価を得ています。

ソルツァー氏は《National Spelling Bee》（米国で毎年開催される小中学生向け全国規模の綴りコンテスト）や PBS（全米公共放送サービス）の年次コンサート《A Capitol Fourth》（独立記念日を祝う演奏会番組）といったライブ放送イベントの現場で、ネットワークの設計 / 構築 / 運用を担う頼れる存在です。彼の仕事は毎週異なるクライアントの個別ニーズに対応するだけでなく、各ネットワーク・インフラを効率的に構築 & 最適化しつつ、状況の変化に即座に柔軟に対応できるだけの柔軟性も備えさせることです。

2012 年に同社の Artist G2 インターカム・システムを導入して以来、ソルツァー氏は RIEDEL とほぼ 15 年間にわたり協業を続けてきました。同社がステー징事業を拡大し、ライブ中継イベントでのビデオ・モニターのレンタルも手がけるようになると、プロダクション車両からディスプレイへ信号を送るためのソリューションが必要になりました。従来の信号伝送機器では求める性能に届かないと判断したソルツァー氏は、解決策として RIEDEL の MediorNet MicroN シリーズを採用しました。同氏はこの分散型メッシュ・ネットワークについて、「まさに我々が解決しようとしていた問題に対する次世代のソリューションのように感じられました」と述べています。

「当初は MicroN ユニットの 4 台と Compact Pro を 2 台からスタートしました」とソルツァー氏は述べています。「その後、クライアントのニーズに対応するため、在庫を着実に増やし、現在は MicroN フレームが 23 台、MicroN UHD ユニットの 5 台、Compact Pro が 11 台になっています」

「RIEDEL がファイバーの密度を売り込みポイントにするようになって、私たちも本格的に乗り気になりました。MediorNet の最大の強みは、ファイバー管理に対するアプローチにあり、すべては帯域幅を効率的に構築することにあります。このシステムの秘訣は、従来のようなポイントツーポイント接続（番組用映像を 1 本のファイバーに、プロンプター用映像を別のファイバーに送る方式）を使わない点です。代わりに MediorNet は信号を多重化し、システムが自動的に利用可能な帯域幅を割り当てて、必要な信号を必要な場所へ転送します。これにより、計画立案や運用が大幅に簡素化されます」

必要なものは何でも、必要な場所に

RIEDEL の MediorNet は完全にソフトウェアで制御されるハードウェア・システムです。用途に応じてさまざまな役割を果たします。マルチビューアとして、または強力な信号プロセッサとして機能したり、非集中型ルーターの一部になったり、IP ネットワークへのブリッジとして使ったり、最大 12 系統の双方向 HD 信号を送送するポイントツーポイント・リンクとして活用したりできます。この高密度信号インターフェイスは、音声 / 映像 / データのさまざまな入出力に対応しており、12 ポートの双方向 3G/HD/SD-SDI ビデオ・ポートと、最大 128 チャンネルの音声を扱える 2 つの MADI ポートを備えています。データ伝送と同期用には、MicroN は 1 ギガビット・イーサネットポート 1 つと、10Gbit SFP ポートを 8 つ搭載しており、合計 80 ギガビットのネットワーク容量を提供します。これにより、完全に冗長化されたメッシュ型のメディア・ネットワークを構築することが可能です。

簡素化された展開

ネットワーク設定の簡素化と、幅広いクライアントに対応できる柔軟性の構築という二重の課題に直面したソルツァー氏はすぐにこの手法を取り入れました。12 年が経った今、彼の方法論は進化を遂げ、どんな種類のイベントであっても I/O 容量を最大限に活かせる十分な帯域幅を常に確保するとともに、現場の変化するニーズに柔軟に対応できる体制を整えています。

「各番組ごとにゼロから構築するのではなく、広く適用できるパラメータがあることがわかっていますので、今年の初めに MediorNet ハードウェアの一部を再パッケージ化し、ほとんどの展開に対応できるようにしました」と彼は述べています。ソルツァー氏の展開構成は、12 台の 4U フィールド・ノードと、中継車に引き渡すための 2 台の大型車両ノードで構成されています。ポータブルでキャスター付きの各フィールド・ノードは、1 台の MicroN と 1 台の Compact Pro で構成されており、車両ラックには複数の MicroN と、I/O 機能を拡張可能なモジュラー・フレームまたは Compact Pro のいずれかが搭載されています。



「各 MicroN フレームはノード間を 10 ギガビット・リンクで接続しています。一方、Compact Pro は 4.25 ギガビット・リンクを基盤としています」とソルツァー氏は述べています。「私たちは現場でのほとんどの帯域を、この MicroN の 10 ギガビット・リンクを中心に構築しています。これにより、1 本の光ファイバーで MicroN フレームのフルバンド幅を最大限に活用できます。1 つの双方向 SFP で、なんと 6 系統の独立した双方向ビデオ信号を 1 本の接続だけで伝送可能です。そして、その 6 つの 10 ギガビット・リンクすべてを車両に引き戻しています。また、Compact Pro に対しては 2 本の 4.25 ギガビット・リンクをデジチェーン接続することで、追加のイーサネット接続とアナログ音声入出力も確保し、会場内で必要に応じて展開できるようにしています。

「中継車ラックでは、通常 4 台以上の MicroN ユニットと、Compact Pro またはモジュラー・フレームのいずれかを一緒にパッケージングしています。これにより、追加の I/O 拡張の余地を持たせています。また、ラックマウント型の QC モニターと専用のルーター・パネルを設置しており、ケーブルを動かしたりパッチを繋ぎ直したりすることなく、入ってくる信号も出ていく信号も、その場で品質確認ができるようになっています」

イーサネット・トンネリング

このシステムはすでに確立されたネットワークに対して、さらにイーサネット・トンネルを追加する機能を提供しています。「イーサネット・カードを追加することで、車両側でさらに 12 ポートのイーサネット・ポートを確保できます」とソルツァー氏は付け加えます。「イーサネット・トンネルの仕組みは——これが RIEDEL の素晴らしいアイデアだと思うのですが——スイッチングが一切なく、裏側に何かの魔法があるわけでもありません。純粋なイーサネット・トンネルなので、クライアントが必要とする接続サイズを自由に選ぶことができ、帯域幅が自動的にスケールします。MediorNet ネットワーク内にはスイッチングは存在せず、要するに両端にメディア・コンバーターを置いているようなものです。つまりすべてがポイントツーポイント接続になっています」



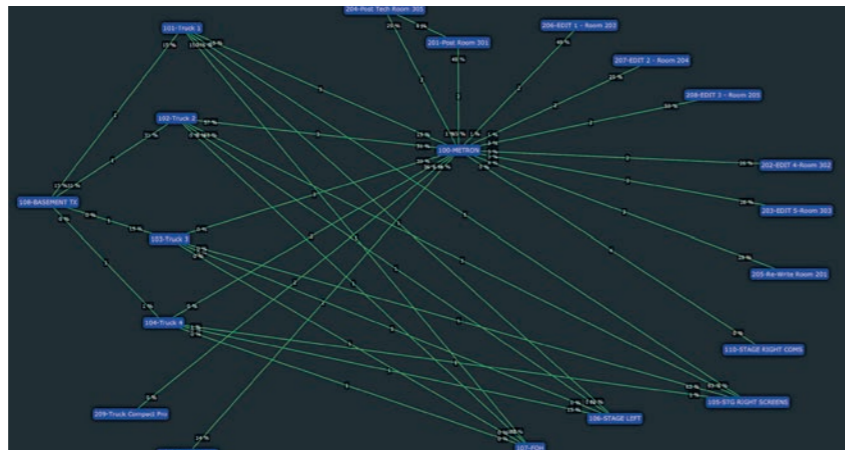
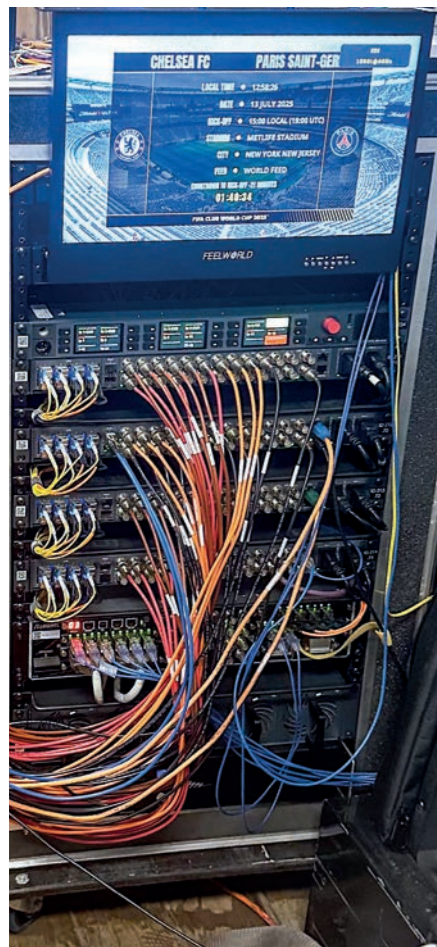
従来のメディア・ネットワークでは、車両と会場間のさまざまな接続に対応するために、大量のケーブル配線が必要でした。これに対し、MediorNet はたった 1 本のマルチキャスト・ネットワーク・ケーブルで接続を簡素化します。これにより、敷設する必要のある光ファイバーの量が大幅に減り、コスト削減とセットアップ時間の大幅な短縮を実現します（ソルツァー氏によると、通常は設置作業が約 4 時間短縮されるとのことです）。また、運用要件が変更になった場合にも、容易にスケールアップして対応することが可能です。

「従来、会場内の複数の場所で番組映像を必要とする場合、中継車は車両側面にある複数のパッチ・パネルからその信号を手渡していました」とソルツァー氏は言います。「MediorNet では、その信号を 1 回（バックアップが必要なら 2 回）だけ取り込み、MediorNet システム全体に配信します。これにより、システムはノード・ベースのビデオ・ルーターとして機能します。会場が複数の場所で映像フィードを必要とする場合、ノードから直接取り出すことができるため、会場内にさらにケーブルを引き回す必要がなくなり、計画立案と設置作業が大幅に簡素化されます。

「FOH ポジションにノードを設置して、客席側の音響 & 照明ポジションをカバーするかもしれません。また、舞台監督がアクセスできるように舞台袖左右にノードを置く可能性もあります。プロデューサー卓用に 1 台、そしてスクリーン分配ポイントに専用のノードを 1 台設置するかもしれません。各フィールド・ノードは、車両ノードまで最大 8 本のファイバーを接続する容量があります。MediorNet は必要な数だけフィールド・ノードを柔軟に追加でき、ルーターのデータ、Dante チャンネル、インターネットなど、複数のイーサネット・パスを対応させることが可能です」

米大統領選の直近の選挙期間中、East Shore Sound はネットワーク上の複数の編集スイートを活用し、制作スタッフがリアルタイムで編集作業を行える環境を整えました。ライブのロケーション撮影で行われる深夜のバラエティ番組のネットワーク・インフラを委託されたソルツァー氏は、車両のルーター・パネルの代わりに RIEDEL の Smart Panel を導入し、これにより、数週間前からシステム全体を事前に設定しておくことが可能になり、当日はハードウェアを設置して接続するだけで済むようになりました。

「また、複数の編集スイートにノードを追加したため、プロダクション側はリアルタイムでインポートしたい素材を自分の編集コンピュータに直接選択し、それを車両に送り返すことができました」と彼は語ります。「すべての信号が車両側の MediorNet システム上にあったおかげで、車両の技師は各編集スイートごとに何時間もかけてルーター・パネルをプログラミングする必要がなくなりました。すべて最初から準備ができていたのです」



組み込まれた冗長性

MediorNet はさまざまなネットワーク・トポロジーの組み合わせを柔軟にサポートするハイブリッド・インフラを迅速に構築可能なため、ソルツァー氏は帯域を階層化し、万一、ハードウェアの1つが故障した場合でも致命的な障害を回避することができます。一方、RIEDELのリアルタイム診断 GUIは、各リンクの帯域を監視します。このシステムの目的は、各リンクの容量レベルについてライブでフィードバックを提供することであり、ユーザー・フレンドリーな色分けシステムを採用しています。これにより、光ファイバーの光レベルを監視し、帯域に関する潜在的な問題を事前に警告します。

「システムの最大の強みの1つは内蔵された冗長性です」とソルツァー氏は言います。「私たちは通常、部分メッシュ・アーキテクチャを採用しています。これにより、ポイント A とポイント B の間のファイバー・リンクが失われた場合でも、利用可能な帯域を使って信号を自動的に迂回ルーティングします。実践的な観点からは、2110 環境で働くのと似ており、同じようにネットワークについて人々が異なる考え方をするようになるのは難しい場合があります。MediorNet では、信号を送っているのではなく、帯域を構築しているのです。そしてシステムが、その帯域をどのように使って信号をポイント A からポイント B へ届けるかを決定します。つまり、ポイント A とポイント B の間に直接接続がなくても、両者の間に利用可能な帯域さえあれば、システムは信号を送信します」

未来を繋ぐ橋

MediorNet の独自のハイブリッドな特性により、East Shore Sound の多様なクライアント・ニーズにシンプルに対応できる一方で、ソルツァー氏はこれを問題解決ツールとして捉えています。また、放送局が徐々に IP 環境へと移行する中で、信号の受け渡しをあらゆる種類の接続経路で裏送り（バックホール）できるようになるにつれ、MediorNet はそれらすべてを繋ぐ橋の役割を果たすことができます。

「私は MediorNet を明確に「橋、だと考えています」とソルツァー氏は言います。「中継車が 2110 ベースの場合でも、従来の音声や映像のための入口と出口が必要です。これは限られた数のフィールド・キットで対応できますが、その車両が 6 台や 8 台のフィールド・キットを必要とする番組に予約が入った場合はどうなるでしょうか。私は MediorNet が、プラグ&プレイの I/O ハードウェアを現場に素早く展開するための橋になると見えています。

「例えばビデオ・ゲーム関連の大規模イベントでは、多数の館内スクリーン・コンテンツと、放送番組と同時に行われる館内ショーが存在します。その場合、放送車両は両方に繋げる必要があります。MediorNet はそこでも橋の役割を果たし、分散型メッシュ・ネットワーク上で複数のフォーマットに適応しながら、両方の要件に対応します」



OPENING DOORS IN KUALA LUMPUR

Riedel Communications のグローバル・ソフトウェア & IT サポート拠点を強化

■ 2026 年 1 月 28 日、Riedel Communications はマレーシアのクアラルンプールに新しいオフィスを開業しました。この新拠点により、RIEDEL はソフトウェア・サポートとカスタマー・サービスにおけるグローバルな体制をさらに拡大します。特に、サービスおよびソフトウェア中心のメディア・ワークフローに戦略的に注力し、世界中のお客様に対して専門的な 24 時間 365 日サポートを提供できる体制を強化します。

新設された拠点にはソフトウェアおよび IT エンジニア 12 人が所属しており、サービス&サポート・マネージャーとしてドイツで 4 年間勤務した経験を持つムスタファ・カマルが責任者として戻ってきました。同チームは、RIEDEL の Virtual SmartPanels や SAME Smart Audio & Mixing Engine などのソリューションの導入支援およびサポートを担っています。

RIEDEL はこの新オフィスの開所を祝して、マレーシアのパートナー企業と顧客を招き、盛大なセレモニーを開催しました。豪華なビュッフェが用意されたほか、実際の技術デモンストレーションやネットワークングの機会も提供されました。

「当社のソリューションがソフトウェアや IT ベースの環境へと移行するにつれ、継続的で専門性の高いサポートの必要性がこれまで以上に高まっています。クアラルンプールのチームは、シフト制で週末も含めて対応し、複雑な IT インフラ環境における顧客アプリケーションの展開、サポート、保守に対して、世界レベルの専門知識を提供しています」ムスタファ・カマル



RIGHT IN THE THICK OF THINGS



RIEDELでの研修とデュアル・スタディ・プログラム



■ここ RIEDEL での学びは講義室や教科書だけにとどまりません。それを私は去年、RIEDEL でデュアル・スタディ・プログラムを始めたときにすぐに実感しました。ハンナと申します。現在、ヴッパータールにある RIEDEL のデュアル・スタディ・プログラムで「コミュニケーション&広報」を学んでいます。入社初日からマーケティング・チーム、そして会社全体の一員として活動できたおかげで、理論と実践がどれほど密接に結びついているかを実際に体験することができました。なぜなら RIEDEL では、ただ見ているだけではなく、最初から積極的に参加し、大規模なチームの多様性に貢献する機会が与えられるからです。

芽生え期の IT スペシャリストから物流専門職、機器&システムの電子技術者まで、また商業分野における幅広い研修プログラムやデュアル・スタディ・プログラムまで、RIEDEL はキャリアをスタートさせるための多彩な選択肢を提供しています。現在、本社があるヴッパータールでは、さまざまな訓練年次の約 45 人の研修生およびデュアル・スタディ生が研修を修了中です。研修は実践重視で構成されており、原則として RIEDEL の若手人材は勤務時間の約 60% を社内、40% を職業学校または大学で過ごします。一方、デュアル・スタディ生は多くの場合、月単位のブロック制で働きます。特に商業分野では、定期的な部署異動により、社内のさまざまな部門について包括的な理解を得ることができます。ただし、アメリカにある RIEDEL の各拠点では、トレーニング・プログラムの開発も着々と進められています。その目的は、地域の学校や大学と密に連携し、ティーンエイジャーや若い世代に対して RIEDEL の認知度を高め、興味深いプロジェクトや製品ポートフォリオのプレゼンテーションを通じて、彼らに魅力を伝え、興味を持ってもらうことです。

若き才能たちの声

しかし、RIEDEL の研修生やデュアル・コースの学生たちは、実際のところ、日常の業務をどのように経験しているのでしょうか。また、彼らは会社の中でどのような役割を果たしているのでしょうか。これまでに彼らを形作ってきた経験は何で、Riedel Communications が実践的なパートナーとして彼らにとって何が特別なのでしょうか？

日々の業務は、早い段階からのプロジェクト参加、責任の拡大、そして同社のさまざまな部門について幅広い知見を得られる機会に特徴づけられています。研修生の仕事はすぐに観察するだけの段階を超え、地域規模から国際規模のプロジェクトやチームの一員として活躍します。エレクトロニクス部門の研修生であるティム・シュネルは次のように語っています：「研修中からすでに、ドイツ・ブンデスリーガ、SailGP (Rolex SailGP Championship) のレース、そしてユーロビジョン・ソング・コンテストといったプロジェクトに携わることができました」——これは、若い才能がどれほど早く、世界的に有名なイベントに貢献できるかを示す好例です。



多くの研修生にとって印象に残るのは、プロジェクトの規模の大きさだけでなく、同僚や他の研修生との間の雰囲気です。IT 研修生のミカ・ゴンゼフスキはこう語ります：「仕事そのものがワクワクするだけでなく、周囲の環境も素晴らしいんです。イベントに関する素晴らしい話を聞きながら、やがて自分自身もその一部になっていくんです」。国際的に活躍する人々に囲まれていると、ライブ・イベントやメディア技術の世界に自分がしっかりとつながっているという特別な感覚が生まれます。

これらの刺激的な気づきに加えて、RIEDEL の研修生たちは、責任の度合いを着実に高めながら成長を続けています。商業部門の研修生であるリリアン・ザルニコは、インターンシップでの自身の成長について次のように振り返っています：「最初から会社とともに成長させてもらえました。任される業務はどんどん高度になり、責任も大きくなっていきました。そして、何よりも信頼を感じることができました」。このような成長は、「部署を越えて、対等な関係で育まれる、研修生同士の非常に強い連帯感」によっても支えられていると、リリアンは指摘しています。



当社の研修生に「RIEDEL の魅力は何か？」と聞くと、いつも同じ価値観を挙げてくれます。それは、責任ある仕事、意味のある関わり、そしてオープンな企業文化です。刺激的なテーマ、信頼、そして自己成長のバランスが、ここ RIEDEL での経験を唯一無二のものにしています。

RIEDEL では、研修やデュアル・スタディ・プログラムは、単なるキャリアのスタート以上の意味を持っています。これらは新しい扉を開き、長期的なキャリア展望の始まりとなります。積極的に取り組み、コミットメントを示した人には、研修や学業を無事に修了した後、当社のチームの一員として残る機会が十分にあります。実際に、若手社員の約 90% がこのオファーを活用しており、ここ数年で当社ではほぼすべての部門で若手人材を採用することが可能になりました。RIEDEL における私たちの目標は、若手社員の専門的な資格取得に投資するだけでなく、ともに歩む未来の基盤を築くことです。

/// 私にとって RIEDEL は特別な実践的トレーニング・パートナーです。なぜなら、刺激的なトピック、責任感、そして個人の成長に焦点を当てた環境がすべて揃っているからです

ジェシー・ヘルターホフ
Trainee Commercial

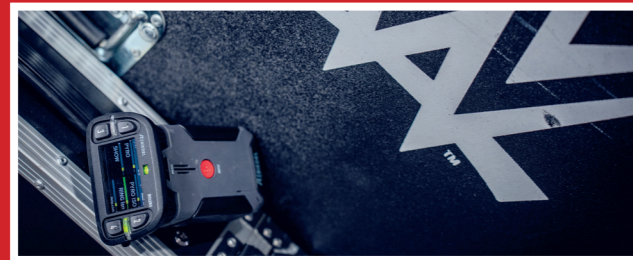
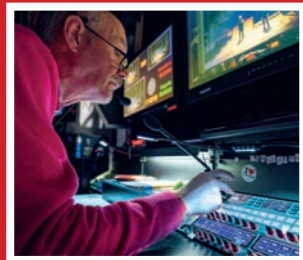
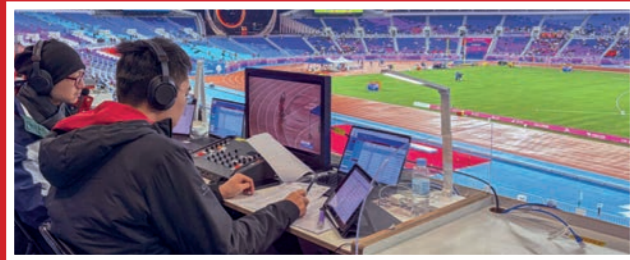


/// 私にとって RIEDEL が際立っているのは、実践的なアプローチとオープンな企業文化があるからです。ここでは、ただ研修を受けるだけでなく、積極的に関わり、励まされ、真剣に扱われます。それが大きな違いを生んでいるのです

アンナ・グラドチェンコ
Dual Student of Business Administration

PROJECT PICTURES

YOUR DAILY UPDATE



#C4908

RIEDEL

今日をもっとやりきる。 明日もコントロールする。

自分と一緒に進化するインフラの上で。



MediorNet!!!

MediorNet は SDI と IP のプロセッシング / ルーティング / マルチビューイング を統合するモジュラー型分散エコシステムです。

業界標準に合わせて ベースバンドからフル IP まで柔軟に進化し、 RIEDEL の hi human interface を通じて シームレスに統合 & 制御されます。

hi human interface

MediorNet とハイブリッド SDI/IP 制作を統括する 一体型制御システム。

- ベンダーに依存しないブラウザ・ベース放送制御システム
- MediorNet との深い統合により、ルーティング、プロセッシング、マルチビューイングを一元管理
- ベースバンド、SDI、IP ワークフローを 1 つのシステムで橋渡しする一体型制御

MediorNet Horizon ST 2110 MultiViewer App

最新制作環境向けのネイティブ IP マルチビューア。

- ST 2110 対応マルチビューア (NMOS IS-04/05 対応)
- 1RU で最大 128 PiP、16 ヘッド出力
- 実績のある MediorNet マルチビューア・ワークフローを IP 環境にも拡張



riedel.net



Artist

Countdown

05

Artist

Video 02

Video 04

Riedel Communications Japan 株式会社
150-0045 東京都渋谷区神泉町 8-1
フォーラム渋谷神泉 6F
Phone: 03-6233-7673

   
www.riedel.net

2026-05 (JP)
Japanese Translation © 2026 Riedel Communications Japan

FOR THE RECORD. IN TELETEXT!